

令和 4 年 6 月 30 日現在

機関番号：12301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K04745

研究課題名(和文)美術教育におけるアートの身体論の構築

研究課題名(英文)The construction of artistic body theories in art education

研究代表者

郡司 明子(Gunji, Akiko)

群馬大学・教育学部・准教授

研究者番号：00610651

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、美術教育における「アートの身体」に関する実践研究を通じた理論構築である。

幼児・児童・教員養成学部学生・教員等、幅広い対象において身体性を重視する(ひらく・感じる・聴く・問う・なってみる・表す・味わう)造形的な創造活動を通じて、身体と世界(もの・こと・人・場所)との対話における過程を捉えてきた。その結果、身体が世界に交わる中で感性=身体感覚/感情が動き、身体に宿る想像性/創造性が触発されて創造的想像力が発揮される事例が認められた。そこで、アートの身体とは「世界に対話的であろうとする志向(思考)/行為」(仮)とし、美術教育における「アートの身体」論を実装する研究に接続した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

先行き不透明の不安な時代にあって、身体は自他の存在=「生」に向き合う確かな拠り所である。現在、アートの教育は探究的な学びの基盤に位置づく「学びの技」(habits of mind)の促進やSTEAM教育等の観点からも注目を集めている。まさに本研究は分断された学びをアート/身体において繋ぎ合わせ、「生(学び)の全体性」を回復するものである。さらに身体×メディア(多様な芸術表現)の可能性は、既存の美術教育の意義を拡張し、現在重視されている教科横断的なカリキュラム・マネジメントのあり方にも示唆的な要素に富むゆえ、教育現場への実質的に貢献する子ができる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to construct a theory through practical research on the "artistic body" in art education. Through creative activities that emphasize embodiment (opening, feeling, listening, questioning, becoming, expressing, tasting) in a wide range of subjects, including young children, children, teacher training students, and teachers, we have been capturing the process of dialogue between the body and the world (object, subject, person, and place). As a result, I have observed cases in which sensitivity (physical sensation/emotion) moves as the body interacts with the world, and the imagination/creation that resides in the body is inspired, resulting in creative imagination. Therefore, the artistic body was defined as "an orientation (thought)/action that tries to be interactive with the world" (tentative), and was connected to the research to implement the "artistic body" theory in art education.

研究分野：教科教育(図画工作科・美術科)

キーワード：美術教育 身体 アートの思考 表現 対話 コミュニケーション

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究の動機／背景

本研究の開始は 2017 年である。小学校教員として学校現場に身を置く中で、また、教員養成大学の教員として様々な教育現場を実践研究のフィールドとする中で、疲弊した現場の状況に直面することが多々あった。生活苦、不安定な家庭状況、学習困難等、あらゆる生きづらさを抱える子どもたち。そのケアやトラブルの対応に追われ、多忙かつ終わりのない学校業務に従事する教員の心身も限界に達するなど、心の叫びに近い訴えを直接耳にしてきた。大人も子どもも、「生」の綻びが進行していく。そこに追い討ちをかけるように、2020 年以降は新型コロナウイルスの影響により、家庭及び学校の生活は混乱に陥ると同時に、より管理的な側面を強調せざるを得ない状況になっていった。

(2) 学校教育をめぐる背景

2017 年には新学習指導要領が告示され、育成を目指す資質・能力の明確化により「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱が整理された。特に三つ目の「学びに向かう力・人間性等」は、OECD が提唱する 21 世紀型スキルを支える「habit of mind」即ち、「学びの技」を促進する知的精神的行動的な構えを醸成するアートの教育として期待される効果と重なるところである。（『アートの教育学』, 2016）

他方、図画工作科及び美術科においては、「造形的な見方・考え方」を育む教科であることが強調された。このことは、教科の特性を認識するにあたり重要なことであるが、教科ごとに学習が分化され、断片化してしまう傾向も危惧される。ゆえに、図工・美術科教育が陥る造形主義（形と色の教育に還元してしまう偏った専門性）の検討を視野に入れ、教科以前の全体／全人的かつ身体性を通じた学びの豊かさを担い得るのが図工・美術科の授業であることを提言していく必要性を感じている。

(3) 社会的・学術的な背景

社会的・学術的な動向として、ウェルビーイング（Wellbeing）＝身体的にも、精神的にも、社会的にも「よい状態」であることを求めて、テクノロジーに基づくコミュニケーションを軸とし、その思想、実践、技術に注目する動きも出てきた。（渡邊淳司／ドミニク・チェン 2017, 2020）このような背景に即し、表現とコミュニケーションの学び＝アートが「生（いのち）」のケアと育みによって全体性を回復するという理念に基づき、美術教育における「アートの身体」の理論を構築することを研究の目的に据えた。

具体的には、イタリア、レッジョ・エミリア市におけるアート（市民）教育アプローチ（2012 年と 2016 年に現地を視察、International program への参加、2019 年レッジョ ナラを視察）等に学び、「生きる技法」としてのアートの身体試論を提案したいと考えた。なお、「子どもの『アートの思考』を基盤にした保育の可能性に関する論理的実践的研究」（基盤研究（B）研究代表：植村朋弘 H26-28, 研究分担者：森・刑部・郡司・佐伯）では、レッジョ・エミリアにおける現地スタッフとの直接的な対話を通じ、その教育思考の根幹を成す「アートの思考」を巡り、理論構築への協議を重ねてきた。ここに本研究の萌芽がある。

2. 研究の目的

本研究の目的は、美術教育における「アートの身体」に関する実践研究を通じた理論構築である。アートは一般的な「芸術」の意味を超え、その語源に即し「技芸（技）」と捉えることから、人が「生きる技法」として、その可能性をひらく社会的実践が展開している。アートの実践は「想像力による生きる力の回復であり、人間らしい感性を社会システムのなかに取り戻していくための新しい可能性」である。（アートミーツケア学会設立趣旨, 2006）また、「技」とは頭で理解したことに留まらず“身につけるもの”であり、身体／実感を伴う学びを意味する。さらに、先行きが不透明で予測不可能な社会状況にあって、身体は自他の存在に向き合う確かな拠り所となる。筆者はこのようなアート観、身体観を前提とし、幅広いフィールドにて美術教育を専門とする立場から実践研究を行ってきた。

前研究機関（お茶の水女子大学附属小学校）では、学習分野「アート」を立ち上げ（辰巳・郡司 2002）、身体性を重視する造形活動を展開、実践の基軸に「からだ・気づき・対話」を据えた。同時期に「生きる技法としてのアート」（佐藤学）という考え方が浸透しつつあり、アートの教育とは想像力と創造性を育む教育であることが本研究の基軸になった。（『子どもたちの想像力を育む』, 2003）その先行研究として、伊）レッジョ・エミリア市におけるアートを基盤にした教育が位置づく。レッジョ・エミリア・アプローチの真髄とも言える Pedagogy of Listening: 子どもの声に聴き入ることの教育哲学は、世界（もの・こと・人・場所）と対話的であろうとする「アートの身体」論の構築に大きな示唆を与えてくれる。

これらの理論をもとにアートの実践を行うなかで、寛容さを失い錯綜する社会において、ありのままの「生」を肯定し、多様性を尊重できる美術（科）教育が担う役割は大変大きいと感じた。美術教育を専門とする者の責務は、表層的な造形性の学びに終始せず、誰もがよりよく生きるための「技」の習得に向け、アートの思考（志向）に基づいた「生きる体幹」（小松佳代子）を磨

き、世界に対話的であろうとする「アートの身体」を育むことだという認識に至った。その際に、造形性（形・色・質感等）を巡る気づきや思考はもとより、造形活動における身体と世界の対話（呼びかけ-応答-修正のサイクル）が重要であることは言うまでもない。

このような考えに基づき、傷つき弱った「生」を回復していく美術教育はいかにあるべきか、これからの美術教育が担う「アートの身体」の育成とはどのようなものなのか。これらを実践と理論の往還において明らかにすることが本研究の目的である。

3. 研究の方法

(1) 文献調査等による理論研究

①アート（教育）の観点から、身体論における心身の構造、学習論における学習過程を整理し、身体／技法となる学びの生成過程とそのメカニズムを明らかにする。

②美術教育における身体観の変遷を辿る歴史研究から、アートの身体のあり方や今後の方向性を検討する。

(2) 実践をもとにした省察的研究

①ライフ（生・生活・衣食住等）×アートをテーマにした展覧会への作品出品やパフォーマンス（ダンスやドラマ等の身体表現）の視点から、身体性を活性化させ、学びの質的転換を促す実践を開発／実施する。

②身体＝メディアの考えに基づき、メディアテクノロジーを活用した実践におけるアートの身体について考察する

③実験的な実践記録やインタビュー調査等を通じ、学びの記録に関するアセスメント（評価）のあり方を検討する。

上記を通じ実践と理論の往来における確かな論証から、アートの身体論を構築する。

4. 研究成果

本研究の終着点である、美術教育における「アートの身体」論を、「アートの思考」になぞらえて次のように定義するに至った。

まず、「アートの思考」（佐伯胖）とは、「絵的に考える」「なってみて考える」という想像的かつ創造的な思考である。絵的に外側から全体を捉えると同時に、対象自身に入り込むことで、その対象からの視点を獲得し、内と外を往来しつつ身を持って実感することである。

次に「アートの身体」とは、「アートの思考」が生成する「からだ（心身の意）」のことであり、対象との具体的な操作（呼び掛け-応答-修正の過程）を伴いつつ、「世界に対話的（対象の声に聴き入る）であり続けようとする志向／行為」である。

この点において造形活動とは、対象（世界）と身体とのコミュニケーション（対話：呼びかけ-応答）過程そのものであり、アートの身体／思考を際立たせるシステムとも言える。ゆえに、想像力と創造性が宿る身体は、ファンタジー（虚）の世界の広がりにも属し、もう一つのリアル（現実）、もう一つの世界を生きることができるのである。これが再び「生」を活性化するアートの学び／教育の可能性とも言えよう。

これらを踏まえ、あらためて美術教育における「アートの身体」論とは、『世界に対話的であろうとする志向／行為』の育成を目指し、感性／思考／コミュニケーション／テキスト／などを活用するアートによって課題解決に向かう学び論である。』（仮）と定義した。

以下に、方法論で挙げた項目に関する成果やさらなる検討課題を記したい。

(1) 理論研究

①造形的な創造活動における身体（生）の技法の生成過程

幼児・児童・教員養成学部学生・教員等、幅広い対象において身体性を重視する（ひらく・感じる・聴く・問う・なってみる・表す・味わう）造形的な創造活動を通じて、身体と世界（もの・こと・人・場所）との対話における過程を捉えてきた。その結果、身体が世界に交わる中で感性＝身体感覚／感情が動き、身体に宿る想像性／創造性が触発されて創造的想像力が発揮される事例が認められた。

②美術教育における身体観の変遷を辿る歴史研究

明治期の美術教育黎明期（臨画：なぞる）から大正自由教育における自由画教育（自由画：選ぶ）、戦中の芸能科図画・芸能科工作、（戦争画／工作：合わせる）戦後の民間美術教育運動（創造美育運動：ひらく）、各学習指導要領の変遷に伴う教育観における身体性の推移を文献調査により概観した。特に、美術教育の専門誌として1935年創刊以来、現在に続く「教育美術」における身体性をキーワードにした論文調査からは、時代背景と連動した価値観により、求められる身体性の振れ幅も大きく推移していることが読み取れた。

特に、現在の美術科教育の素地にあたる昭和22年版『学習指導要領図画工作編（思案）』では、図画工作科の必要な理由を4項目挙げているが、そのいずれも身体性に基づくキーワードであることは興味深い。1. 発表力の養成、2. 技術力の養成、3. 芸術心の啓培、4. 具体的、実地的な活動性の助長である。これらは、造形性の学びを前提としつつ、強調されている



のは他者との表現を通じたコミュニケーションであることが読み取れる。

また、造形遊びの導入（1977年）以降、体全体の「動き」を想定した図画工作科は身体性の観点からはターニングポイントになる。これらの観点は引き続き、継続調査を行い、論文等にまとめる予定である。

(2) 実践をもとにした省察的研究

① 学びの質的転換を促す実践を開発／実施

▶ 「ライフ×アート展」における実践紹介



生活における身近な素材や場所等に着眼し、触って楽しむ、居心地のよい空間を探る等、身体性との関連において実践研究の「場」を展示し、訪れた方々とさらなる対話につなぐ流れを考え実施した。

▶ 「パフォーマンスアーツ」等の視点から

・美術教育研究室の教員と学生でダイアログ・イン・ザ・ダークにおける暗闇体験研修に参加し、特殊な空間における身体感覚の働きに関する体験と考察を通じ、アートの身体について思考を深める視点を得た。（2017）

・有志の学生らと共にアート活動を行なっている高崎市のこども園にて、高松市を拠点に芸術士として活動を展開する村井知之氏を招聘し、アートの身体を育む観点からワークショップを開催、その内容をもとに今日的なアート教育の意義を探るシンポジウムを行った。身体表現の教育的価値を課題に向き合う内容となった。（2018）

・美術教育研究室の学生らと共に、ダイアログ・イン・サイレンスにおける音のない世界を体験する研修に参加し、身体感覚の活性化という点からアートの身体について思考を深める視点を得た。（2018）

・「アートの身体」の考察にあたり、先行研究及び実践事例に位置づく、伊) レッジョ・エミリア市におけるレッジョ・ナラ（市民によるアートの語り／パフォーマンス）を見学し、そこで得た知見をもとに「アルテナラ前橋」の開催に至った。（2019）

・大学授業「コミュニティ学習ワークショップ」では、美術の活動にも造詣の深いダンサーを講師に迎え、保育現場における遊び／学びの過程をアーティスト、幼児、学生の視点から捉えた論文執筆を通じて、コロナ禍における身体性を基軸とした学びの重要性を再認識するに至った。（2020）

・大学授業「コミュニティ学習ワークショップ」では、ダンサー（コンドルズとハンドルズ＝障害のあるダンサー）を招聘し、学生及び特別支援学校の児童・生徒とのダンスワークショップの機会を設け、幅広く「アートの身体」のありようを考察する中で、美術（アート）教育に還元していく要素を見出すことができた。特に、身体表現として即興的にイメージを出力・交流することは、動きを通じて共に楽しむ中でさらなるイメージが喚起され、学びの場が活性化することから、造形表現以前のイメージの広がり（拓かれた身体）を保障する際に有効な手立てとして位置付けられる。（2021）

② 身体＝メディアの観点からアートの身体に関する考察を行う

・「身体×メディア」（伊アーティスト：signi mossi による）ワークは、造形表現と身体表現が自然に融合する内容で「アートの身体」を育む上で理想的な実践モデルを見出すことができ、今後の実践研究に多大なる示唆を得ることができた。（2019）

・社会・身体・メディアテクノロジーをテーマに新しい芸術表現を実験的に探究する YCAM（山口情報芸術センター）や子どもとメディアテクノロジーとの出会いから創造・表現活動を推進する CANVAS の実践及び研究動向を探ることができた。（2019）

③ 学びの記録に関するアセスメント（評価）のあり方を検討

・アート活動の素材をクリエイティブ・リユースの観点から再利用するため、園舎の建築等を手がける企業と連携し、学生スタッフと共に地域の保育現場にて身体性を重視する実践活動を定期的に行なった。その際、アートの身体のある方を捉える仕組みを整え、ドキュメントウォール等を通じて可視化、共有してきた。この掲示が子どもが自身の活動をふり振り返り、保育者や仲間同士、保護者と対話をする契機となり、さらなる活動の展開に寄与していることが伺えた。この取り組みは、論文と学会発表にて提示した。

（2017・2018・2019）



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計31件（うち査読付論文 14件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 郡司明子・茂木一司・市川寛也・栗原啓祥・藤田善宏	4. 巻 第38号
2. 論文標題 「コロナ禍における表現とコミュニケーションの学びに関する一考察『コミュニティ学習ワークショップ』の授業を通じて」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 群馬大学教育実践研究	6. 最初と最後の頁 pp.127-138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 郡司明子	4. 巻 Vol. 39
2. 論文標題 「大学でのオンライン授業による色彩教育の実践」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 色彩教育	6. 最初と最後の頁 30 - 31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 郡司明子・茂木克浩・井上昌樹	4. 巻 第2巻
2. 論文標題 「アーティスト・イン・スクール（AIS）アドバイザー兼 コーディネーター 3 人によるふりかえりトーク」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 令和2年度 アーティスト・イン・スクール活動報告書	6. 最初と最後の頁 7 - 8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 茂木一司	4. 巻 第38号
2. 論文標題 インクルーシブアート教育の理念と当時者性 - 視覚障害を中心に -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 群馬大学教育実践研究	6. 最初と最後の頁 105 - 112
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 茂木一司、多胡宏、竹丸草子	4. 巻 第56号
2. 論文標題 インクルーシブアート題材開発の理念と実践 現代アートによる見えない/見える人が協働する題材開発過程	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 群馬大学共同教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 1 - 15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 刑部育子	4. 巻 なし
2. 論文標題 < 保育子どもセミナー講演 > 保育におけるアートの可能性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 保育子ども研究2020年度	6. 最初と最後の頁 7 - 13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 名取和幸・郡司明子・赤木重文・大内啓子	4. 巻 Vol.37
2. 論文標題 座談会 色彩教育におけるデジタル表現を中心にPART3 絵本と色彩 絵本の色を楽しむ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 色彩教育	6. 最初と最後の頁 6-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 郡司明子	4. 巻 30巻
2. 論文標題 SENSE - みがかずば？	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 児童教育	6. 最初と最後の頁 5 - 8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 郡司明子・狩野未来	4. 巻 第19号
2. 論文標題 幼時期と小学校をつなぐ遊び／学びの一考察－「アートの思考」に基づく算数の学習を通じて－	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 群馬大学教科教育学研究	6. 最初と最後の頁 51-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮川沙織・郡司明子・石原加奈子・梶原千恵・狩野未来	4. 巻 第37号
2. 論文標題 子どものアートの身体／思考を促す造形活動の考察－BFAプロジェクトの実践を通じて－	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 群馬大学教育実践研究	6. 最初と最後の頁 131-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 郡司明子・栗原啓祥・他 (編集委員会報告)	4. 巻 第11巻
2. 論文標題 「アートが息づく子どもの生活－アーティストと協同する園の実践を通じて－」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 保育ナビ	6. 最初と最後の頁 28-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 茂木一司、多胡宏、大内進	4. 巻 第55号
2. 論文標題 インクルーシブ教育時代の視覚障害アート教育をどうしたらいいのか - 見える / 見えない / 見えにくいを越境する教材開発	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 群馬大学教育学部紀要 芸術・技術・生活科学編	6. 最初と最後の頁 11 - 24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 茂木一司、梶原千恵、住中浩史、竹丸草子	4. 巻 第53号
2. 論文標題 インクルーシブドローイング・ワークショップ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本美術教育研究論集（公益社団法人日本美術教育連合）	6. 最初と最後の頁 155 - 162
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 梶原千恵・竹丸草子・茂木一司	4. 巻 第37号
2. 論文標題 インクルーシブアート教育の広がり可能性 障害のある子どもが災害と向き合うためのアート教育実践	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 群馬大学教育実践研究	6. 最初と最後の頁 111-119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 郡司明子	4. 巻 No.915
2. 論文標題 教科を超える学びの可能性ー身体性を重視することからー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育美術	6. 最初と最後の頁 14-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 郡司明子	4. 巻 No.972
2. 論文標題 身体性を重視した教育活動ー図画工作科の現代的な可能性を探るー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 初等教育資料	6. 最初と最後の頁 68-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮川紗織、郡司明子、石原加奈子、毛塚鮎美	4. 巻 第36号
2. 論文標題 子どもの生活をより豊かにするアート活動の考察 -地域に向けたBFAプロジェクトはどのように展開しているか-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 群馬大学教育実践研究	6. 最初と最後の頁 81-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 刑部育子	4. 巻 154
2. 論文標題 アートのまなざし(視点)が保育を変える	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 発達	6. 最初と最後の頁 31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 刑部育子・いずみナーサリー・お茶の水女子大学附属幼稚園・お茶の水女子大学こども園・瀧田節子・堀井武彦・小沼律子・柳澤佳奈子・お茶の水女子大学附属中学校・桐山瞭子・小泉薫・郡司明子・小崎美希・土谷香菜子・内海結香・浜口順子	4. 巻 2巻
2. 論文標題 LIFE ART	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 LIFE x ART2018報告書	6. 最初と最後の頁 10 - 11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 茂木一司	4. 巻 911号
2. 論文標題 共生社会をめざす教育の中で美術教育はどうしたらいいのか? インクルーシブアート教育という提案	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育美術	6. 最初と最後の頁 14 - 19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 茂木克浩、茂木一司	4. 巻 54巻
2. 論文標題 中学校美術科教育におけるPBL学習の再検証ーインクルーシブデザインの視点からー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 群馬大学教育学部紀要 芸術・技術・体育・生活科学編	6. 最初と最後の頁 17-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梶原千恵、茂木一司	4. 巻 36号
2. 論文標題 中学校美術部の活動におけるインクルーシブ教育の可能性ー被災地における美術部×地域×アーティストによるアートプロジェクトの実践ー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 群馬大学教育実践研究	6. 最初と最後の頁 73 - 80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 郡司明子、宮川紗織、上原康央、福島直、石原加奈子、毛塚鮎美、岡本麻衣	4. 巻 第35号
2. 論文標題 子どもの生活をより豊かにするアート活動の考察 地域に向けたBFAプロジェクトはいかに始まったか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 群馬大学教育実践研究	6. 最初と最後の頁 91 - 102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮川紗織、郡司明子	4. 巻 第17号
2. 論文標題 「上毛電鉄ごちそうアートトレイン」における学びの考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 群馬大学教科教育学研究	6. 最初と最後の頁 73-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 茂木一司	4. 巻 第35号
2. 論文標題 インクルーシブアート教育システム構築のための覚え書き 第3報	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 群馬大学教育実践研究	6. 最初と最後の頁 71-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 茂木克浩・茂木一司	4. 巻 53号
2. 論文標題 中学校美術教育におけるPBL型学習 「人DESIGN Project」の事例研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 群馬大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 25-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 茂木一司・手塚千尋・佐藤真帆・笠原広一・池田史志	4. 巻 51号
2. 論文標題 文化多様性の理解を目的とした色彩構成ワークショップの開発	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本美術教育研究論集2018	6. 最初と最後の頁 19-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 茂木一司	4. 巻 36
2. 論文標題 デジタル表現の拡張と美術教育の未来	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 色彩教育	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳澤知明・茂木一司	4. 巻 36巻
2. 論文標題 ライゾマティック・インタビュー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 色彩教育	6. 最初と最後の頁 2-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 会田大也・蔵本大資・茂木一司・赤木重文・大内啓子・穴澤秀文	4. 巻 36巻
2. 論文標題 色彩教育におけるデジタル表現を中心に Part2(座談会)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 色彩教育	6. 最初と最後の頁 6-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 刑部育子・桐山瞭子・堀井武彦・灰谷知子・浜口順子	4. 巻 117(1)
2. 論文標題 保育の「根本考察」にチャレンジ! 4: 幼児期の表現を支える材料・道具	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 幼児の教育	6. 最初と最後の頁 4-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計71件 (うち招待講演 21件 / うち国際学会 10件)

1. 発表者名 郡司明子
2. 発表標題 教員養成学部におけるオンライン授業の課題と可能性ー図工科指導法の学習を通じてー
3. 学会等名 図工美術会議 夏の学習会 オンライン (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 茂木一司・郡司明子・宮川沙織・廣瀬智央・中山晴奈
2. 発表標題 食×アートプロジェクトの過去・現在・未来
3. 学会等名 食×アートの学びが拓く持続可能な社会構築研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 郡司明子
2. 発表標題 ぞうけいあそび勉強会
3. 学会等名 小学館集英社プロダクション研修会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 住友文彦・郡司明子・中島佑太
2. 発表標題 「学校の変なルールを面白いものに」
3. 学会等名 第4回まちほけチャンネル（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 郡司明子・竹丸草子・萩原朔美・藤田善宏・渡邊未有・ドロップス・a/r/t/s lab. ・ぐんぴけん・てんがいず
2. 発表標題 きざし
3. 学会等名 アルテナラ前橋2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 茂木一司・多湖宏・小野介也
2. 発表標題 麦わら屋@mina展
3. 学会等名 なし
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 茂木一司、多湖宏
2. 発表標題 視覚障害のためのインクルーシブアート学習
3. 学会等名 令和2年度全国盲学校図工・美術教育研究会 オンライン（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 茂木一司
2. 発表標題 日本の「構成」・「造形」教育再考、バウハウスと日本の美術教育 - 構成」・「造形」教育の系譜と現在 -
3. 学会等名 公益社団法人日本美術教育連合主催総会記念講演会2020
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 茂木一司
2. 発表標題 「ワークショップで学ぶ色彩：『色彩ワークショップ』（2020）を使用した色彩学の基礎理論と日本の色彩文化」
3. 学会等名 日本色彩教育研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 多湖宏・茂木一司・小野介也
2. 発表標題 麦わら屋の作家たち展
3. 学会等名 なし
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 茂木一司、北島珠美、住中浩史、竹丸草子
2. 発表標題 栗田支援学校と美大附属高等学院の映像制作を通しての交流活動におけるアドバイザー講師
3. 学会等名 なし
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西村陽平、茂木一司
2. 発表標題 多様性を育む絵画ワークショップ&ファシリテーション講座
3. 学会等名 なし
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 茂木一司
2. 発表標題 障害のある人達のアートを支える / ファシリテーションの可能性
3. 学会等名 「多様性を育むダンス&美術プロジェクト」トーク
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 茂木一司、竹丸草子、多胡宏
2. 発表標題 令和2年度障害者芸術文化活動推進研修会ワークショップ
3. 学会等名 なし
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 茂木一司、手塚千尋、北島珠美、宮坂慎司
2. 発表標題 特別支援学校におけるオンライン授業の実践報告と課題について
3. 学会等名 第43回美術科教育学会愛媛大会、インクルーシブ美術教育部会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐木みどり・佐木彩水・野口紗生・齋藤亜矢・刑部育子
2. 発表標題 アートは幼児にとってどのような意味があるのか：人・もの・こととのかかわりの視点から
3. 学会等名 日本保育学会第73回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 郡司明子
2. 発表標題 「さわってメモリーゲーム」
3. 学会等名 第6回お茶の水女子大学ライフ×アート展
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 町山太郎・郡司明子・平田智久
2. 発表標題 身体性と表現
3. 学会等名 幼児造形教育研究会 第45回 夏の研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 アルテナラ前橋（竹丸草子・郡司明子他）・ドロップ・堀光希
2. 発表標題 ALBA 夜明け
3. 学会等名 アルテナラ前橋
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 郡司明子
2. 発表標題 こどもたちのためのアート教育
3. 学会等名 高崎市里見小学校PTAセミナー（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宮川沙織・梶原千恵・石原加奈子・郡司明子
2. 発表標題 子どものアートの身体／思考を促す造形活動の考察－BFAプロジェクトの実践を通じて－
3. 学会等名 美術科教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 郡司明子
2. 発表標題 美術教育における「アートの身体」論を実装するパフォーマンスの実践 / 理論に向けて
3. 学会等名 美術科教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 刑部育子
2. 発表標題 保育におけるアートの可能性
3. 学会等名 東洋英和女学院大学保育子ども研究所第13回保育子どもセミナー（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 林武史・日比野克彦・宮崎清孝・ベス・フェアホルト・刑部育子・齋藤亜矢
2. 発表標題 アート（表現活動、表現遊び）は子どもにとってどのような意味があるのか
3. 学会等名 林武史ワークショップラウンドテーブル（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuji Mogi
2. 発表標題 Kumano Taisya x Norito x Omikuji.....What kind of dream do you have?
3. 学会等名 Mapping A/r/tography InSEA 2019 Exhibition（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuji Mogi, Chie Kajiwara, Hiroshi Suminaka, Soko Takemaru
2. 発表標題 Inclusive Drawing Workshop
3. 学会等名 InSEA(International Society for Education through Art) 2019 Making (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Koichi Kasahara, Chihiro Tetsuko, Maho Sato, Toshio Ishii, Takashi Takao, Satoshi Ikeda, Kayoko Komatsu, Kazuji Mogi, Minako Kayama,
2. 発表標題 A/r/tographic Inquiry through Kumano Kodo Pilgrimage Trails Walking
3. 学会等名 InSEA(International Society for Education through Art) 2019 Making (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Koichi Kasahara, Chihiro Tetsuka, Maho Sato, Satoshi Ikeda, Kazuji Mogi, Kayoko Komatsu, The Color Arrangement Workshop
2. 発表標題 as a Method of A/r/tography,
3. 学会等名 InSEA(International Society for Education through Art) 2019 Making (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大内進、茂木一司
2. 発表標題 ウフィッツィ美術館における視覚障害者対応の改革
3. 学会等名 第28回視覚障害リハビリテーション研究発表大会(盛岡大会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 茂木一司、多胡宏
2. 発表標題 インクルーシブ教育時代の視覚障害美術教育をどうしたらいいのか 見える/見えない/見えにくい子どもを対象にした中学校の美術教材開発を旨として
3. 学会等名 第4回全国盲学校図工美術研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 茂木一司
2. 発表標題 視覚障害と色彩
3. 学会等名 第69回日本色彩教育研究会本部研修会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 茂木一司、多胡宏、前島芳雄
2. 発表標題 共生社会を支える障害のあるひとの表現活動を考える
3. 学会等名 「麦わら屋の作家たち展」開催記念イベントシンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 茂木一司他
2. 発表標題 文化芸術による社会包摂型度の評価手法・ガイドラインの構築シンポジウム「文化芸術における社会包摂実践の波及 終わりのない探求プロセスとしての評価を考える」
3. 学会等名 令和元年度群馬大学と文化庁の共同研究事業
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 茂木一司、竹丸草子
2. 発表標題 「普及支援事業と基本計画の推進のためのワークショップ」
3. 学会等名 令和元年度障害者芸術文化活動普及支援事業「第3回全国連絡会議」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 茂木一司、竹丸草子
2. 発表標題 令和元年度障害者芸術文化活動普及支援事業「成果報告会ふりかえりワークショップ」
3. 学会等名 厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業 令和元年度「成果報告会」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 郡司明子・町山太郎
2. 発表標題 身体性と表現
3. 学会等名 第44回幼児造形教育研究会夏の研修大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 植村朋弘・森真理・片桐隆嗣・徳田憲生・刑部育子・郡司明子
2. 発表標題 子どもの100のことばとプロジェクト・アプローチの関係性を考える レッジョ・エミリアとの対話を通して
3. 学会等名 日本保育学会第71回大会自主シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 郡司明子
2. 発表標題 幼児期における造形表現－造形的な見方・考え方の基盤を育む－
3. 学会等名 前橋市教育研究会幼児教育部会全体研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 郡司明子
2. 発表標題 様々な素材に親しむ中で豊かな創造性を育む活動 - からだまるごと新聞紙と仲良し－
3. 学会等名 平成30年度大田区教育委員会幼児教育センター第3回幼稚園教諭・保育士合同研修会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 郡司明子
2. 発表標題 身体性に基づく表現・鑑賞活動の工夫－図工美術教育の新しい学びを考える－
3. 学会等名 前橋市小学校図工実技研修会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 郡司明子
2. 発表標題 キラキラ輝けアートの世界！親子で楽しく表現遊び
3. 学会等名 大田区幼児教育センター主催家庭教育支援講座（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 郡司明子
2. 発表標題 ライフ×アートの心もちー我が家のお茶の間よりー (作品展示)
3. 学会等名 第5回お茶の水女子大学ライフ×アート展
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mori, M., Uemura, T., Gyobu, I., Sayeki, Y., Gunji, A., Fukuda, T., & Katagiri, R.
2. 発表標題 Listening the hundred languages of children is the key for transformation of practice in Japan
3. 学会等名 EECERA 2018 Conference (国際学会) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 刑部育子
2. 発表標題 大人との関わりで子どもの表現が育つのだろうか
3. 学会等名 川越ゆりえワークショップシンポジウムコメンテーター (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 茂木一司
2. 発表標題 インクルーシブなつながりをアートから
3. 学会等名 さぬき生活文化振興財団 第32回 まなびあい勉強会(招待講演) (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 茂木一司、季里、名取和幸、住中浩史
2. 発表標題 デジタル色彩教育のこれから Part3 絵本の色 デジタル×アナログ
3. 学会等名 第68回日本色彩教育研究会本部研修会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 茂木一司、吉岡洋、柳澤理子、川口淳一、朝倉由希
2. 発表標題 文化芸術による社会包摂は可能か?芸術と医療・福祉の対話と越境
3. 学会等名 平成30年度文化庁と群馬大学との共同研究事業
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 茂木一司・多胡宏・大内進
2. 発表標題 全盲児と使える図工美術題材開発の研究協力者 -視覚障害児者のためのインクルーシブ美術教育構築のために-
3. 学会等名 第41回美術科教育学会北海道大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 茂木一司・大内進
2. 発表標題 イタリアにおけるインクルーシブな視覚障害のための美術鑑賞
3. 学会等名 第41回美術科教育学会北海道大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 古川聖、茂木一司、藤井晴行、川崎義博、大塚姿子、西原尚、三枝一将、園部秀穂、長尾孝治
2. 発表標題 ” サウンドドローイング, 響鳴する風景 / sounding landscape ” をめぐって
3. 学会等名 科学技術振興機構 領域開拓プログラム ” 響き合う空間、励起される美意識 ”
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Chihiro Tetsuka, Maho Sato, Koichi Kasahara, Satoshi Ikeda, Kazuji Mogi
2. 発表標題 The Color Arrangement Workshop - understanding cultural diversity
3. 学会等名 InSEA Regional Conference 2018(国際学会) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森真理、井出孝太郎、植村朋弘、刑部育子、郡司明子
2. 発表標題 素材との対話を通して生み出されるアートの学び～レゾ・エミリア戸の対話、マテリアルの声を聴く～
3. 学会等名 第70回日本保育学会自主シンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 郡司明子
2. 発表標題 “ 賢いからだ ” を育む造形表現活動の在り方について
3. 学会等名 大田区教育委員会幼児教育センター第1回幼保合同研修会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 郡司明子
2. 発表標題 「キラキラ輝けアートの世界！親子で楽しく表現遊び」
3. 学会等名 大田区家庭教育支援講座（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 町山太郎、郡司明子
2. 発表標題 身体性と表現
3. 学会等名 幼児造形教育研究会 第34回夏の研修大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 木村充子、郡司明子、福田きよみ、白澤 舞
2. 発表標題 表現活動における身体と創造性 保育者・教員養成課程の造形・音楽・言葉・身体の授業実践から考える
3. 学会等名 日本発達心理学会第29回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 郡司明子、宮川紗織
2. 発表標題 子どもの生活をより豊かにするアート活動の考察 地域に向けたBFAプロジェクトを通じて
3. 学会等名 第40回美術科教育学会 滋賀大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 郡司明子
2. 発表標題 美術教育におけるアートの身体論の構築
3. 学会等名 第40回美術科教育学会 滋賀大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kazuji Mogi ,Chihiro Tetsuka ,Maho Sato (Chiba Univ.), Koichi Kasahara ,Satoshi Ikeda ,Akiko Gunji ,Fumihiro Sunohara
2. 発表標題 Workshop:Drawing on Diversity: How socially engaged art education promotes cultural diversity and strengthens community
3. 学会等名 35th World InSEA Congress 2017 - DAEGU, Korea(国際学会) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kazuji Mogi
2. 発表標題 Art as the Basis for Education : from collaborative to inclusive art education
3. 学会等名 35th World InSEA Congress 2017 - DAEGU, Korea(国際学会) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 手塚千尋・佐藤真帆・笠原広一・池田史志・茂木一司
2. 発表標題 文化多様性の理解を目的とした色彩構成ワークショップの開発
3. 学会等名 第51回日本美術教育研究発表会2017(招待講演) (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 茂木一司
2. 発表標題 「アートの学び」がつくるインクルーシブな社会の可能性
3. 学会等名 つくば市民大学 とともに楽しむアート・ラボ 第7回(招待講演) (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 茂木一司
2. 発表標題 インクルーシブアート教育とまえばしアートスクール計画
3. 学会等名 文化庁×九州大学共同研究プロジェクト「アートと社会包摂」キックオフフォーラム(招待講演) (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 茂木一司・熊谷薫・今井朋・岡安賢一・石幡愛・高橋かおり・落合千華・湯澤文昭・石坂玄士・山賀ざくろ・木村祐子
2. 発表標題 文化芸術による社会包摂の評価手法・ガイドライン構築の事例研究ーキックオフ・シンポジウム「音でさわる、目で踊る~高齢者施設えいめいにおける音と身体ワークショップは、介護の現場に何をもたらすのか~」
3. 学会等名 群馬大学と文化庁の共同研究事業「文化芸術による社会包摂型度の評価手法・ガイドライン 構築のためのシンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 茂木一司・木暮萌
2. 発表標題 ジェンダー・LGBTQと美術教育-なぜ日本の美術/教育では難しいのか?-
3. 学会等名 美術科教育学会第40回滋賀大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山下完和・茂木一司
2. 発表標題 インクルーシブ美術教育研究部会「インクルーシブ社会/教育にアートはどのように関係/貢献できるのか やまなみ工房で紡がれる日常と表現」
3. 学会等名 美術科教育学会第40回滋賀大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 飯塚花笑・茂木一司
2. 発表標題 平成29年度 第2回アートスクールカフェ「僕らの未来」上映会・対談・ワークショップ
3. 学会等名 まえばしインクルーシブ美術教育研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大内 進・多胡 宏・茂木一司
2. 発表標題 「視覚障害児の美術教育を考える」シンポジウム
3. 学会等名 群馬大学研修院美術教育
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mori, M., Gyobu, I., Uemura, T., Gunji, A., & Sayeki, Y.
2. 発表標題 Ensuring Dialogue between Children and Materials for Children to Become Protagonists in Creating a Sustainable Future: Responding Reggio Emilia Approach
3. 学会等名 69th OMEP World Assembly and International Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Mori, M., Uemura, T., Gyobu, I., Sayeki, Y., & Gunji, A.
2. 発表標題 Expanding the Horizon of Pedagogy of Listening from the Japanese Perspectives: Having Dialogue with Philosophy and Practice of ECEC in Reggio Emilia
3. 学会等名 EECERA 2017 Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 授業研究部会 (刑部育子・岡照幸・大泉義一他)
2. 発表標題 シンポジウム: 美術科教育における授業研究のこれから: 授業研究の手引書『美術科教育における授業研究のすすめ方』をふまえて
3. 学会等名 美術科教育学会第40回大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計14件

1. 著者名 Kazuji Mogi, Soko Takemaru, Rocfo Lara-Osuna, Ken Morimoto, Kayoko Komatsu, Takashi Takao, Kwang Dae Chung, Ken Morimoto, etc.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 InSEA Publications	5. 総ページ数 74
3. 書名 " Mapping A/r/tgraphy:Exhibition Catalogue, InSEA 2019 World Congress "	

1. 著者名 林武史・日比野克彦・宮崎清孝・ベス・フェアホルト・刑部育子・齋藤亜矢・佐木みどり・佐木彩水・佐木玲水	4. 発行年 2020年
2. 出版社 学校法人揖斐幼稚園	5. 総ページ数 22
3. 書名 Hakken to Boken project HAYASHI TAKESHI WORKSHOP IN IBI-YOUCHIEN2019 テーマ: 水みず・土つち・宇宙そら	

1. 著者名 小林紀子・刑部育子・高野牧子・佐川早季子・吉永早苗・砂上史子・郡司明子・槇英子・宮里暁美・平野麻衣子・丁子かおる	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 244 (郡司担当111 - 122)
3. 書名 保育内容「表現」	

1. 著者名 無藤隆・浜口順子・宮里暁美・刑部育子・砂上史子・吉川はる奈・岩立京子・吉永早苗・郡司明子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 萌文書林	5. 総ページ数 257
3. 書名 新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 表現 (郡司担当第8章)	

1. 著者名 川越ゆりえ・刑部育子・齋藤亜矢・宮崎清孝・野口紗生・佐木彩水・佐木みどり (佐木玲水, 編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 学校法人揖斐幼稚園	5. 総ページ数 24
3. 書名 Hakken to Boken project YURIE KAWAGOE WORKSHOP IN IBI-YOUCHIEN 2018 テーマ: こころ・むし	

1. 著者名 茂木一司編集代表、住中浩史、春原史寛、中平紀子、Nプロジェクト編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 245
3. 書名 とがびアートプロジェクト	

1. 著者名 Richard Hickman (編集), John Baldacchino (編集), Kerry Freedman (編集)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Wiley-Blackwell	5. 総ページ数 1856
3. 書名 The International Encyclopedia of Art and Design Education, 3 Volume Set	

1. 著者名 無藤隆、浜口順子、宮里暁美、刑部育子、砂上史子、吉川はる奈、岩立京子、吉永早苗、郡司明子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 萌文書林	5. 総ページ数 257
3. 書名 新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 表現	

1. 著者名 無藤隆、井上知香、岩立京子、大方美香、岡上直子、神長美津子、郡司明子、古賀松香、駒久美子、齊藤崇、酒井幸子、佐々木晃、佐藤有香、島田由紀子、鈴木康弘、清水益治、砂上史子、望月文代、山下文一、山瀬範子、横山真貴子、吉田伊津美、吉永早苗	4. 発行年 2017年
2. 出版社 萌文書林	5. 総ページ数 163
3. 書名 幼稚園教諭養成課程をどう構成するか～モデルカリキュラムに基づく提案～	

1. 著者名 鈴木みゆき、吉永早苗、志民一成、島田由紀子、若山育代、直井玲子、児嶋輝美、郡司明子、中丸元良、川崎徳子、駒久美子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 光生館	5. 総ページ数 184
3. 書名 保育内容 表現	

1. 著者名 神林恒道、中村和世、竹中悠美、小野康男、大橋功、佐藤哲夫、ふじえみつる、馬場千晶、島谷あゆみ、森實祐里、水島尚喜、赤木里香子、相田隆司、鷹木朗、金子一夫、竹井史、新聞伸也、佐藤賢司、直江俊雄、神野真吾、松岡宏明、永守基樹、茂木一司、今井真理、佐原理、大泉義一、三橋純予	4. 発行年 2018年
2. 出版社 三元社	5. 総ページ数 263
3. 書名 美術教育ハンドブック(神林恒道・ふじえみつる監修)	

1. 著者名 永守基樹、藤江充、藤原智也、奥村高明、岡崎昭夫、新井哲夫、笠原広一、茂木一司、佐藤賢司、神野真吾、山木朝彦、大嶋彰、小野康男、辻政博、宇田秀士	4. 発行年 2018年
2. 出版社 学術研究出版	5. 総ページ数 208
3. 書名 美術教育学からの現在から(美術教育学草書1 美術科教育学会叢書編集委員会 永守基樹責任編集)	

1. 著者名 茂木一司、鈴木紗代、吉沢智大、樺澤洋子、春原史寛、小田久美子、住中浩史、中島佑太、山川冬樹	4. 発行年 2018年
2. 出版社 アーツ前橋	5. 総ページ数 6
3. 書名 平成29年度アーツ前橋 アーティスト・イン・スクール事業報告書	

1. 著者名 刑部育子・小沼律子・堀井武彦・中村紘子・柳澤佳奈子・中司智朱希・小泉薫・桐山瞭子・郡司明子・浜口順子・いずみナーサリー・お茶の水女子大学附属幼稚園・お茶の水女子大学こども園・お茶の水女子大学附属中学校	4. 発行年 2018年
2. 出版社 自費出版	5. 総ページ数 32
3. 書名 LIFE x ART 2017	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	刑部 育子 (Gyoubu Ikuko) (20306450)	お茶の水女子大学・基幹研究院・教授 (12611)	
研究分担者	茂木 一司 (Mogi Kazuzi) (30145445)	群馬大学・教育学部・教授 (12301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関